

令和二年九月八日

加賀山
六度満行院 満福寺

お同行各位

秋彼岸会ご案内

長く続いた梅雨がやっと明けた途端に猛烈な暑さが続き、コロナ対策でマスクや換気もしなくてはならず、今年の夏は例年以上に暑さが身にこたえたと思います。一日でも早くコロナが終息するよう祈るばかりです。皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか

例年では八月と言えば、夏の楽しかった思い出をたくさん聞くことが出来るのですが、今年はコロナの影響で自粛が続く中、地域の地藏盆や色々な行事が中止や縮小になり、皆様におかれましてもいつもとは違う夏になったと思います。去年に出来ていたことが今年は出来なくなり、「当たり前」に出来ていたことの有難さ」を改めて感じました。

今年はお盆の棚行参りで、般若心経をあげさせて頂きました。般若心経の中にある「ぎやていぎやてい はらぎやてい はらそうぎやてい ぼじそわか」この一文だけは真言と言いまして、祈祷やおまじないのような意味のお経であります。日本語にしますと「行こう 行こう さあ一緒に一歩ずつ 前に進んで行きましょう」という意味があります。

テレビで、二十四時間テレビの宣伝を見る機会がありました。今年は毎年恒例になっている、チャリティーマラソンを中止にするが、マラソン金メダリストの高橋尚子さんが発案した。一周五キロのコースを一周走るとに十万円を募金する『募金ラン』を代わりに実施することになったというものでした。高橋さんは「偽善と言われることもあると思う。この時期にマラソンをやる必要があるのかなど、色々な意見があると思う。ただ、どんな批判があっても、動かないと。ゼロでも始まらないよりは、何かプラスになる人がいれば、それは意味があるんじゃないかな」とインタビューに答えていました。

この「ぎやてい ぎやてい・・・」の意味、苦しいときは立ち止まってもいい。大変な時は後退してもいい。ただ、前に進めそうなきは一歩ずつ前に進んで行く。一人で大変な時は仲間を力合わせて一歩でもいいから前に進む。苦しいときははずっと続かない、いつかは普段の生活が戻ってくる。こんなに苦しい時だからこそ「何かを伝えることが出来るなら」何もしないのではなく、自分が出来ることをして前に進んで行く。そのことで皆様の気持ちが少しでも前を向けるような一押しになればと思い、般若心経をあげさせて頂きました。

九月はお彼岸の月です。コロナの影響で例年通りお説教を聞いて、多くの檀信徒の皆様に来て頂いてのお彼岸法要は出来ないかもしれないですが、中止にして何もしないのではなく出来る範囲でお彼岸法要をさせて頂き、お彼岸を通して、皆様にとって何かプラスになるご縁を結ぶことが出来たらと考えております。

左記の通り、感染症対策を徹底した上で秋のお彼岸法要をさせて頂く予定をしていますが、コロナウイルス感染症の影響により、檀家様が本堂に入って頂いての参拝を見合わせることもありますので、ご了承下さい。詳しいお彼岸法要の内容はホームページでご案内させて頂きます。どうか、賑々しくご参詣下さい。

◎ 秋季彼岸会大施餓鬼修行

九月二十一日（金）午後2時15分より 住職のお話

午後2時30分より 彼岸会法要

合掌